

雷の子

カトリック町田教会
町田市 中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



イエスは言われた。「確かに、あなた
がわたしに飲ませることをなれど
たがはわたしが飲むことにはなれ
たしは受ける洗礼を受ける右や左に
が座るかは、わたしの決めること
はない。…」

マルコ10. 39-40

恐れることなく「赦し」を見つめて

主任司祭 林 正 人

『平家物語』を原文で初めて読んだのは、高校の古典の授業時だったと記憶しています。そこで触れた話の中で、特に印象に残ったのは「敦盛最期」の段。一の谷合戦の最中、源氏側の武将、熊谷直実が、位の高そうな平氏の武将を追い詰めます。しかしそれは、自分の息子によく似たうら若き青年で、直実は命を取るのを躊躇しますが、最終的にはその首を掻き切るという

悲話です（高校生の私は、原文の「泣く泣く首をぞかいてンげる」を読んで、「回転蹴り」とは、スゴい技を使う奴だ」と思ったものです）。この一件で世の無常を感じた直実は、その後出家して法然の弟子となり、法力房蓮生と号しました。この蓮生には有名な逸話があります。京から関東へ戻る時、「浄土の阿弥陀仏に背を向けるのは恐ろしい」と、馬の背に逆向きに

跨り、西方を眺めながら関東に下ったというのです。ブレることなく、ひたすら御仏のみを見つめて生きる。いかにも元武將らしいエピソードではありません。

ところで、四福音書のうち、『マルコ』による福音書に於けるイエス様の第一声は、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」でした。この「悔い改め」、日本語では普通「改心」となるところを、私たちクリスチャンは「回心」と書きます。何故なら、私たちにあって「悔い改め」「回心」とは、悪い心を改めて元の自分に返ることではなく、赦しの恵みを与えて下さる神様に心を向けること、赦す神様を見つめることだからです。その意味で「回心」は、「神様の赦しの結果」として現れると言えます。

ここに、イエス様の「第一声」の意味が隠されています。イエス様は、「悔い改めなさい。そうすれば神の国は近づく」とは言われませんでした。先ず、「神の国は近づいた」と宣言されたのです。イエス様の登場によって「神の赦し」が到来する。故に人間は、目の前に現れたイエス様を信じることによって、神様の赦しに照らされ、回心に導かれます。

「開かれた教会にしよう」との方針のもとに、「皆さんの意見を聞く会」を8月26日（日）に小聖堂で開催しました。

これは、総会では時間が限られており意見を出しにくいのではということで、皆さんの意見を出してもらう機会をつくり、教会運営に役立てていこうとして開催したものです。

当日は約30名のかたの参加で、実にいろいろな意見が出ました。

少しご紹介いたします。

をはじめとする使徒たちは、イエス様への信仰に於いて、「赦す神様を見つめること」に於いて、ブレることはありませんでした。

私たちは「赦されない」ときに恐れを抱きます。しかし、「赦される」ことにも恐れを感じる、それが人間の悲しい性なのでしょう。しかし、クリスチャンの信仰の本質が、「赦しを見つめる」ことであるならば、私たち、ブレることなく、恐れることなく、「赦す神」そのものであるイエス様を見つめ続けて、共に歩んで参りましょう。

「皆さんの意見を聞く会」の開催

運営委員会議長 久保田 伸

- ・ミサのときの写真撮影について
- ・葬儀に関する質問や、葬儀資料について
- ↓必要が出た時はすぐに司祭に連絡すること
- ・教会関係の問い合わせはどこへ？
- ↓まずは受付へ
- ・ミサの前の静粛が守られていない
- ・掃除について
- ↓火曜日を掃除の日にして、もっとオープンに参加してもらってはという提案
- ↓ブロックの人と話し合え



て楽しいという意見も
 ウエルカムテーブルの存在
 をもつと知ってほしい
 ・新しく来た人への対応につ
 いて現状の確認
 ・町田教会はうまく行つて
 いる方ではないか、という
 意見
 ・病人や高齢者にご聖体を運
 ぶやりかたについて
 ↓長寿感謝ミサのときに意
 見を聞く
 などの意見が出、それにつ
 いて参加者で討議しました。
 その場で方向を考えられた
 項目もありますが、今後、運
 営委員会や各専門委員会で検
 討し、一定の方向を出してい
 こうと考えています。
 皆さまの貴重なご意見あり
 がとうございました。また皆
 で話し合える機会をつくれれ
 ば良いですね。

私たちの共同体

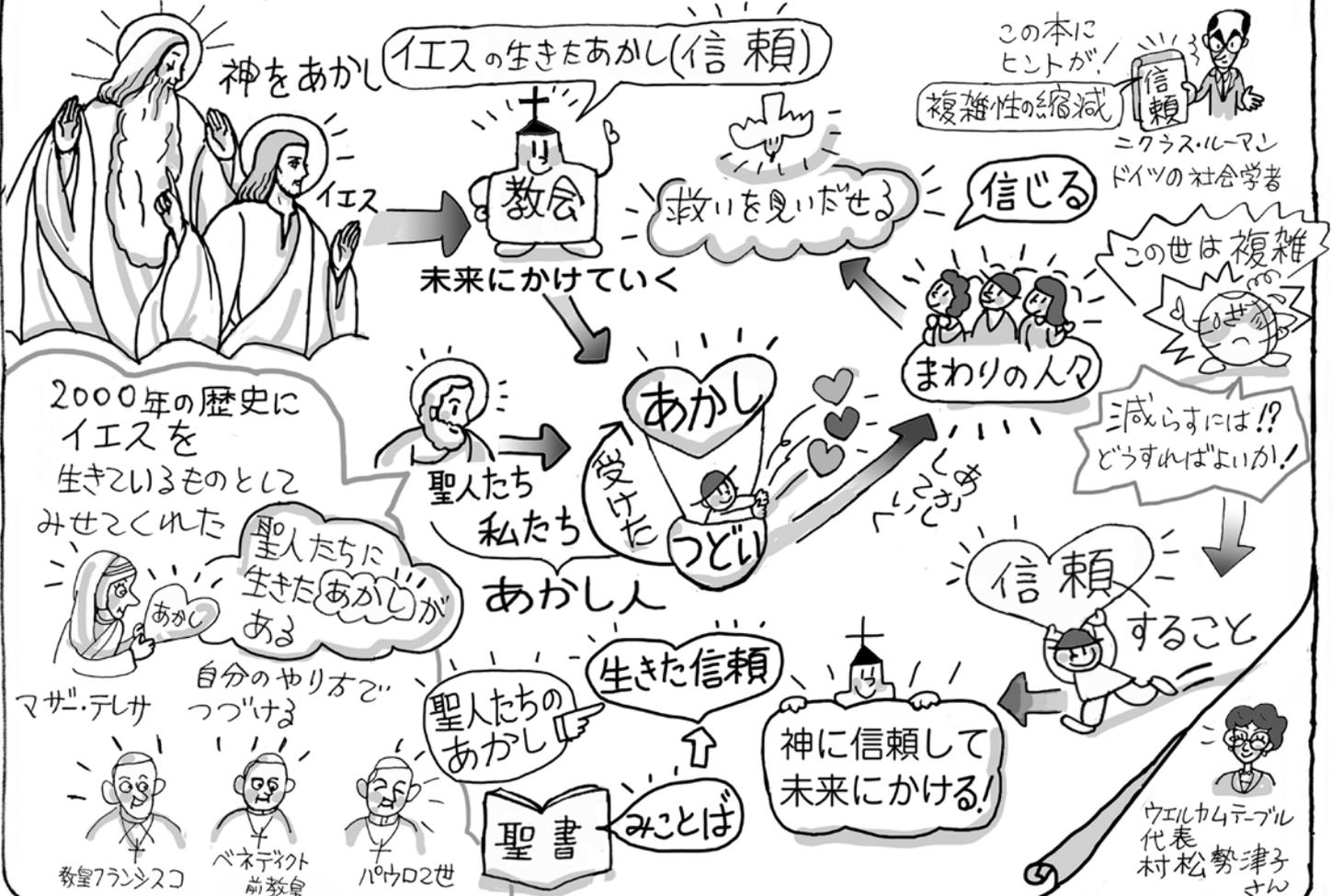
財務委員長 坂井 剛

家族は子供たちのため、将
 来のために懸命に節約し、貯
 金をしますが、町田教会もい
 ま皆で共同体の将来を真剣に
 考える時期にきています。
 日本の少子高齢化の波は確
 実に教会財政にも影響し、複
 雑な要因が絡み単純ではない
 のですが、町田教会の献金総
 額は減少し続けています。
 信者総会の資料を保存され
 ている方は是非、取り出して
 確認してみてください。
 月定献金（ミサ献金・建設
 繕献金含）が減り続け、現在
 の会計制度になった十三年前
 と比較すると年間の月定献金
 総額は三分の二に、月定献金
 して頂いている信者数（世帯
 数）の割合が五十%台から
 四十%台に、個別の献金額も
 減額傾向です。
 町田教会は信者も多いし、
 お金持ちなのだ、と思われて
 いるようなのですが、それは
 認識違いなのです。
 「坂井さん、お金が必要な
 時はその時在籍している信者
 がしっかり対応してくれると
 思いますよ」。こうした意見
 も理解できますが、視点を變
 えて思考してみてください。
 十年後、東京教区の神父は信
 激減します、今のままでは信

イソポ 混沌とした現代社会を生きるには

ウエルカムテーブル主催の黙想会をイソポ（イセネ）
 お話：林 正人神父 7月24日（火）町田教会で11~4時

自分のやり方で
 あかしつづけることによつて
 イエス(教会)を生きる
 ものにする!
 林 正人神父



★あかし(証)とは(証人・証言・証明の意味)

徒数も激減するのです。

明るく活発な町田教会ですから、今なら皆でしつかり話し合えば、子どもたちのために支出を抑え、貯蓄をしようとの合意は得られると確信しているのです。

月定献金をして頂く信徒がせめて五十%台に戻るような各自の献金も微増するような取り組みは何か…。

信者個々にはそれぞれ人に触れてもらいたくないものもあるものです。「小さな親切、余計なお世話」の現実もあります。お互いが交流する時の距離感も難しいですが…、本音での交流が意識改革につながるのだと考えています。

一度豊かな生活（お金を使う生活）に慣れると人間は弱いもので、元に戻るのには難しいのですが、困った時には声を掛けあい、「手作り」で共同体を育てていきましよう。

林神父による黙想会

鈴木 恭江

去る7月24日、東京の最高気温がうなぎのぼりの午後「ウエルカムテーブル」主催の黙想会が行われました。猛暑にもかかわらず、参加者が多いのに驚かされました。当教会と他教会の信徒に加え、一般の方等で百名近い人数と伺いました。スケジュールは

第一部講話、第二部ミサ、第三部茶話会。

第一部は「混沌とした現代社会を生きる」という大きなテーマでした。講師の林師は社会組織の問題、政治、経済、そのほかを理解できる言葉でお話しくださしました。詳しくは、本紙のイラストルポにもまとめられているようですからそちらに譲ることにして、私の印象に残ったのは次のような内容、特に「信頼」というキーワードでした。

複雑は人類の進歩。現代社会を生きるには、その複雑さを減らすことが求められるが、そこで重要になるのは「信頼」である。社会の約束事を信頼すれば、多くの複雑を避けることができる。そのため法律が作られた。だが今日、その法律を作り運用する人や組織に対する信頼が揺らいで



いる。それが私たちに複雑とは違う「混沌」を感じさせる原因ではないだろうか？ 私たちも、ただ闇雲に聖書を読み、信じて、それは「生きた信頼」にはならない。イエス・キリストを「生きた信頼」にしているのは「教会」。「教会のあかし」こそが、私たちにとってイエスを「生きた信頼」にしているのである…。

第二部ではミサに与り、皆で御聖体を拝領。第三部は下のホールへ移動して茶話会となりました。多くの方から「お話が分かりやすく助かります」といった感想が述べられ、「街なかで偶然出会っ

たとき林神父、と声をかけてもよろしいですか」といった質問も飛び出し、和やかなひと時になりました。

後日知り合いのシスターに、混沌とした現代社会をどのように思われるのでしょうかと伺いましたら、すぐさま、社会とは大なり小なり、いつの世も混沌としているものですよ、との言葉に、あらためて常にそのような意識を持って生活するべきだと思えました。また、林師が大森教会時代から「子じか」の編集に携わっていらしたとお聞きして、色々納得できた黙想会でもありました。

特別
奇稿

思い出の町田教会

こんにちは。「雷の子」からの原稿依頼にお応えして、近況をお知らせいたします。

私は、一九七五年四月より十年間町田教会でお世話になりました。その後、関口教会、西千葉教会、神田教会、中央協議会、本所教会を経て、二〇一一年四月に小岩教会に赴任となり現在に至っております。

小岩教会はJR総武線小岩駅より徒歩七八分の所にあり、信徒数が七百〜八百名位の教会で、町田教会に比べると小さな教会ですが、信徒の人たちは皆活発に活動してくれています。敷地内に教区立のレジナ幼稚園（園児は九十名程）もあり、いつも子どもの声が聞こえて楽しくやっています。フィリピン人の方も大勢いらっしゃって、

小岩教会主任司祭 酒井 俊雄

毎月第二日曜日にはタガログ語のミサ、第四日曜日には英語のミサ（私は英語が得意なので行っていませんが）が行われ、七十〜八十名位の方々が参加します。

私は現在八十一歳になり、大分物忘れがひどくなり、信徒の皆様迷惑をかけておりますので、そろそろ引退しなければなりません。どの教会でも良い思い出がいっぱいありますが、特に町田教会は私が最初に赴任した教会で、中でも一番思い出深い懐かしい教会です。先日も町田教会の元青年達が十名位訪ねてくれて、懐かしく、又楽しく思い出話をさせていただきました。これからも、町田教会がますます発展していきますようお祈りいたします。



フィリピン・コミュニティからのサプライズ(9月16日)

「雷の子」奮闘記

真中 祐一

今年町田教会献堂六十周年に当たります。一九六八年の献堂ですから、私が町田教会に来たのはそれから十年後のこととなります。教会内の運営組織もまだ確立しておらず、それだけに皆さんの参加意識も高く、信徒会である「ヤコボ会」が発足したのもこの頃でした(一九六九年)。初代会長を引き受けられた橋本昭男さん(故人)に口説かれて、私は機関紙の編集に携わることになりました(ちなみに、第二代会長は先日帰天された新納春雄さんです)。

「雷の子」はそれまで季刊誌のような発行形態で十九号まで重ねてきたのですが、ヤコボ会発足に合わせて月刊とし、体裁もA4判四頁のリーフレット形式になりました。引き受けてはみたものの、私はほんの数年前に洗礼を受けたばかりで、カトリック教会についても皆さんほどの知識はありません。暗中模索、試行錯誤の繰り返しでした。最初の号(二十号)では、割付け作業に入った途端、一面トップでもう行き詰ってしまいました。題字です。「雷の子」のデザインがないので

す。それまでの冊子の横書きのデザインは使えません。やむなく自分で手書きにしたものを印刷所に持ち込みました。そんな即席の題字がその後も使われつづけ今日にいたっていることは面映ゆくもあり、また感慨深いものがあります。印刷所といえば、乏しい予算で仕事を引き受けてくれる業者を探すのも大変でした。結局、私が勤めていた日比谷図書館近くの役所に入りにいた印刷所に頼んだのですが、納品は当然私の勤務先になります。満員電車のなかそれを持ち帰り、妻や子供に手伝ってもらいながら、教会の連絡棚に配布したことを懐かしく思い出します。

原稿集めで一番印象に残っているのは、遠藤周作さんに寄稿をお願いしたこと。原稿をいただいたことは嬉しかったのですが、その悪字(達筆?)には泣かされました。

苦労は多かったものの、図書館勤めをしていた私には、皆さんが書かれた文章を扱う仕事は張り合いがありました。図書館といえば、その経験が役立ったのは、聖歌集の補修作業です。破損した聖歌集を家に持ち帰り、一冊ずつ修理したことは今でもいい思い出になっています。

【聞き手 編集担当】

夏期学校 7月27日



中高生会夏の練成会 8月25日～26日



町田教会に宿泊。ミサに与かり、ハーベキユ、花火を楽しみ、富士急ハイランドまで遠征。台風接近により町田教会にて開催(台帰り)。井が谷公園探訪、ゲーム大会と楽しい二日を過ごしました。

犠牲献金 中高生会

8月5日 12,777円 (ペロニカ苑へ)
9月2日 5,282円 (ペロニカ苑へ)

編集後記

☆長年にわたって教会を支えてこられた方々の計報が続きますが、「雷の子」でも口絵を担当されてきた遠山悦子さんが帰天されました。この号のトップには、遠山さんが2016年に描かれた作品を再度掲載いたします。感謝と哀悼を込めて。

☆「雷の子」次号の編集会議は10月28日9時30分の予定です。

信者動静

2018年8月～9月

(個人情報のため、削除しています)